

|       |                                         |
|-------|-----------------------------------------|
| 研修名   | 保育実践（運動あそび）<br>令和元年8月26日（月） 13：15～15：45 |
| 講演・演習 | 「関係性を育む運動あそび」                           |
| 講師    | 社会福祉法人 種の会 はつとこども園<br>理事長 片山 喜章 氏       |

## 1 講演要旨

触れ合い遊びは、アレンジと展開がポイントになる

- ① 「全員が常時参加」＝全ての子どもが主役になれる  
待ち時間がないので、簡単なルールのある遊びを短時間で繰り返す展開が大原則となる
- ② 「ルールの段階的展開」  
繰り返しの動きを保つことで、ルールの理解や子ども同士での教え合いが生まれ、関係性の深まりがみられる。  
いつも関わっている友だち以外との関係性づくりにも繋がる  
みんなが理解出来たら段階的活動に切り替え、ルールの変化に適応できる。
- ③ 「したくない子、出来ない子、トラブル対策」  
参加したくなるような簡単な内容からスタートし、少しずつルールに変化を加えていく。  
見ていることも参加の内。出来ることだけが良いのではなく、出来ても出来なくても、トラブルになっても全てが大切な経験である。
- ④ 「保育者の柔軟な展開」＝高まる愉悦感  
遊びの途中で、速さ、動き、ルールの内容にアレンジを入れることで子ども愉悦感が変わってくる。
- ⑤ 「今後、トレンドとなる動画による伝達」  
ユーチューブスタイルを導入し、子どもは視聴して内容理解に至る。  
動画視聴して理解する能力は高い。

## 実践

### ①じゃんけん列車（キラキラじゃんけん）

じゃんけんに勝ったら、負けた先頭の人だけをゲットでき、後ろにいる人達はキラキラしながら一人ずつになり、また違う相手を探す。

本来のじゃんけん列車で負けた場合は、最後まで前の人に繋がっていかなければならないが、負けてもじゃんけんができ、参加していることを楽しめる。

②椅子取りゲーム→従来の排除型ではなく触れ合い型の遊び

椅子の数が徐々に減り、座る場所がない子どもは友だちの膝の上に座って良い。

※自然と2人組になり、触れ合うことができる

半数まで椅子が減ったら半分ずつ座る“チェアーをシェア”に変更

※ペアが変わることで友だちとの関係性が広がる

③フープ電車

フープの中と外に分かれ、2人組で電車になる。相手を見つけ、ジャンケンし、負けた時→中と外を交代する 勝った時→そのまま

※フープの特性を活かし、場所を有効活用→場所移動

※ルールを理解ができていない子ども→繰り返しの中で理解しやすくなる

④アルプス一万尺

2人組対決から4対4の触れ合い対決と増やしていくこともでき、そのままグループ遊びにも繋げられる。

⑤フルーツバスケットをアレンジ＝仲間集め（果物・動物など）

子どもたち自身がフルーツとなって動く機会を増やす。

3人1組で3種類が基本となり、仲間を探していく。

## 2 感想

園でも遊んでいる、じゃんけん列車や椅子取りゲームなどを普段とは違うルールでの遊びを学んだ。

普段している遊び、例えば、椅子取りゲームだと、負けてしまうと応援するだけで遊びに参加できなくなるが、全員が最後まで楽しく参加することが重要だと学んだ。今までのルールにこだわらず、子どもが楽しく遊べるルールを考えていきたい。

時間を区切って楽しかったという充実感を味わうことが大切だと学んだ。

また、ルールの説明を全て、繰り返し遊んでいく中で視覚から覚えていくので、遊びの中で口うるさく言わなくてもいい。「子どもの力を信じて任せよう」とも言っておられました。

学んだ遊びを保育の中で実践していきたい。

（記録：南丹市立八木東保育所 関岡 良子）